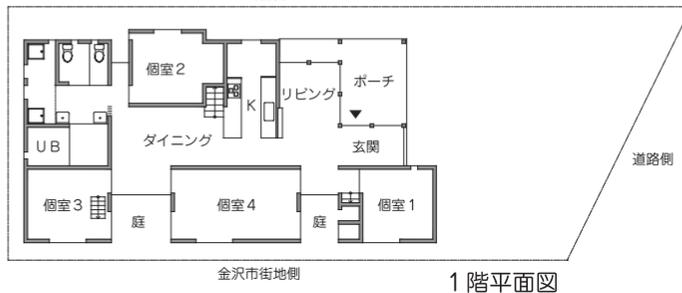


事業主 個人
 用途 一戸建ての住宅 (図書室・ゲストルーム有り)
 敷地面積 282.46㎡
 延床面積 179.9㎡
 構造規模 木造2階建
 収容家族数 女性1、夫婦1、母子家庭1、女学生1



1階平面図

見学後、杉山さんの事務所へお伺いして設計図を拝見させていただき、たくさんのお話を聞きました。杉山さんは、数寄屋建築がやりたくて、吉田五十八さんの事務所には野村加根夫さんの東京アトリ工務所6年(住宅や店舗)数寄屋建築を設計され、30歳で独立されています。日大を出て水澤工務店の面接も受けたそうです。現在の事務所は上田さんと二人三脚で、ゲーム好きの上田さんはCGパース好き、杉山さんは模型好き、ととても良い関係でお仕事されている感じが伝わってきました。これからもオープンシステム(原価で建てる家)を継続しながら、Branchのようにシェアハウスに近いものをやりたい、数寄屋建築をやりたいと思っているとのことでした。

(新建) 若者へ伝えたいことをお伺いしたところ、苦労は買ってもしろ、施主を選ぶこと。夜には金沢三花街のひとつ、ひがし茶屋街へ連れて行っていただきました。そこには下見板の建築が並び、2階の欄干の低いベランダ多くがありました。Branchの2階の腰壁の低さや外壁とつながり、昔の建築の手すりは低かったんだよー、という杉山さんの言葉に、金沢の建築文化を感じました。

Work & Work

この建物にはひとつの要望がありました。それは、宮崎駿・養老孟司対談集「虫眼・アニ眼」のなかに出てくる共同住宅の絵のようにしてほしいという要望でした。それは荒川修作が基本構想したものを宮崎駿が描きおこなったものです。設計者の杉山さんたちは、この難題にチャレンジし、みごと施主を満足させる建築にされました。

施主との出会いは、いつもお世話になっている不動産屋さんの紹介のこと。要望を受けての基本構想。最初はつづき部屋だったそうですが、事務所スタッフと話し合いを続けるうちに分棟平面へ変わっていったそうです。というより最初の杉山さんの案に対して上田さんが、本当にこれでいいんですか、という感じだったそう…。杉山さんは2人で事務所をしているメリットです、とおっしゃっていました。最初はもっとバラバラな感じの平面だったそうですが、みんなが個室を大きくしてほしいという要望により、現在の形になったそうです。

4家族が集まって住むということで、遮音と通風対策から生まれた分棟平面で、外から見ると窓が少ない閉鎖的な感じがするのですが、中に入ると、外への広がりがとても感じられる空間でした。外壁のくぼみが



▲外壁は下見板、窓には縦格子。くぼみの部分は庭



▲玄関の大きな庇のあるポーチが出向かえてくれます



▲ダイニングのトップライト下にて。左から、杉山さん、オーナーの息子さん、オーナーさん、上田さん



▲公園側から望むBranchの分棟屋根。向こうには金沢市街地が広がります。大家族のように、いくつかの家族が集まって住む様子がよく分かります。

金沢の風通り抜ける分棟建築 Branch

設計：杉山真設計事務所

この建物にはひとつの要望がありました。それは、宮崎駿・養老孟司対談集「虫眼・アニ眼」のなかに出てくる共同住宅の絵のようにしてほしいという要望でした。それは荒川修作が基本構想したものを宮崎駿が描きおこなったものです。設計者の杉山さんたちは、この難題にチャレンジし、みごと施主を満足させる建築にされました。

施主との出会いは、いつもお世話になっている不動産屋さんの紹介のこと。要望を受けての基本構想。最初はつづき部屋だったそうですが、事務所スタッフと話し合いを続けるうちに分棟平面へ変わっていったそうです。というより最初の杉山さんの案に対して上田さんが、本当にこれでいいんですか、という感じだったそう…。杉山さんは2人で事務所をしているメリットです、とおっしゃっていました。最初はもっとバラバラな感じの平面だったそうですが、みんなが個室を大きくしてほしいという要望により、現在の形になったそうです。

4家族が集まって住むということで、遮音と通風対策から生まれた分棟平面で、外から見ると窓が少ない閉鎖的な感じがするのですが、中に入ると、外への広がりがとても感じられる空間でした。外壁のくぼみが

Branch=つどう、つながる、ひろがる

開口部と庭になっていたり、窓の腰高さが低く設計されていました(2階は少し怖いくらい)。またトップライトで上部から光を取り込み、曇り空の多い金沢の暗くながちな部屋を明るくしています。そして、雨が多いので大きな開口部の軒の出はきっちり大きくとられていました。

仕上材は、外装は下見板、石膏ボードによる耐力壁、ウッドファイバー、筋交い、サーモスサッシ(LIXIL)。サイディングは凍害で早くダメになるそうです。内装は無垢フローリングマツ(安曇野のマツ)、壁珪藻土クロス(サンゲツ)、天井クロス、トップライト、ブラインド、手すり無垢材です。

まず大きな屋根のあるポーチに迎えられる。リビングがポーチに面していて、中にはゆったりとしたソファとペレットストーブが見えます。リビングを横目に玄関を入ると、民芸筆筒が置かれていて、洗い出し床に切り株の飛び石ならぬ飛び木が楽し気に並んでいます。一気にジブリの世界へ。共用のキッチンとダイニ

ングテーブルを中心に、各個室や水廻りが配置され、2階につながる階段が3つ。それぞれ図書室・ゲストルーム・2階個室へとつながります。1階ダイニングは中庭とつながり、2階からは近くの公園の桜や金沢市内の眺望が広がります。夏には花火も見られるそうです。

オープンシステム(CM分離発注方式)を12年近く採用されている杉山さん。原価の見える家づくりというので、無垢材を使いながらも珪藻土クロスなどメリハリをつけて、コストを抑える最大限の努力をし、かつ品質や要望や空間の雰囲気確保する設計技術とさまざまなディテールを体感することができました。

オーナーにもお話を伺いすることができました。竣工後の住み心地はとてもよく、満足しているとのことでした。現在は3家族で住んでいて、共用の空間での良いつながりが保たれているそうです(現在はオーナーがつくる夕食を皆が食べているそうです)。最初の案では、屋根に芝生があったり、ステンドグラスも入れたかったようで、これからBranchの看板に蔦をはわせたり、ポーチをカフェにしたい、中庭へ植樹をしたり、屋根にデッキをつくる、などなど、まだまだ思いは尽きないようです。(愛知支部 黒野晶大)



▲玄関の民芸筆筒、洗い出し床、切株の飛木